

BYODの利活用に関するアンケート2025

実施期間：2025年9月19日-10月24日

対象者：全学生

主催：IT活用教育センター

結果報告



■ 調査の目的と背景

本学ではBYOD (Bring Your Own Device) 制度導入から5年が経過し、PCの使用状況が多様化していることから、
利活用状況や学修環境について全学生を対象としたアンケートを実施。

結果を元に



新入生向け推奨
PCスペックの見直し



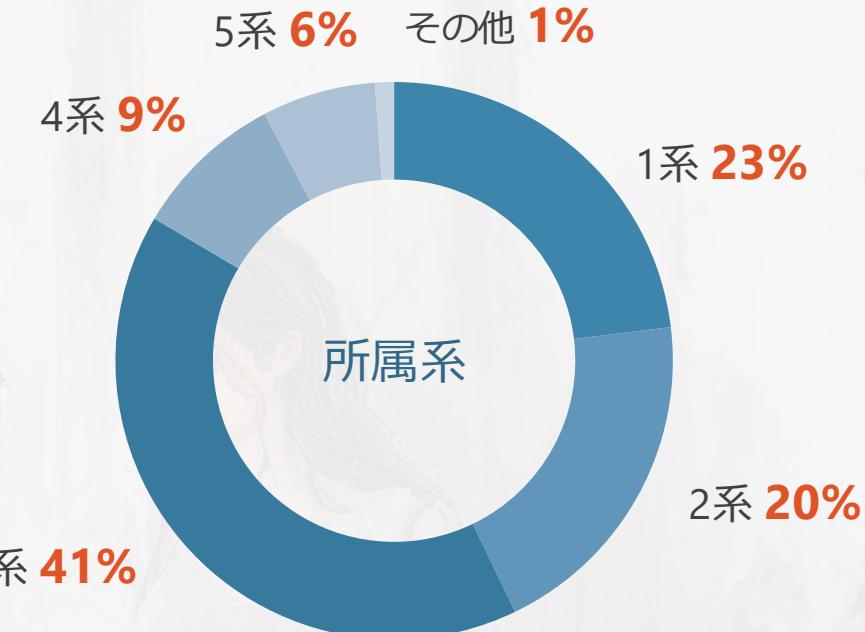
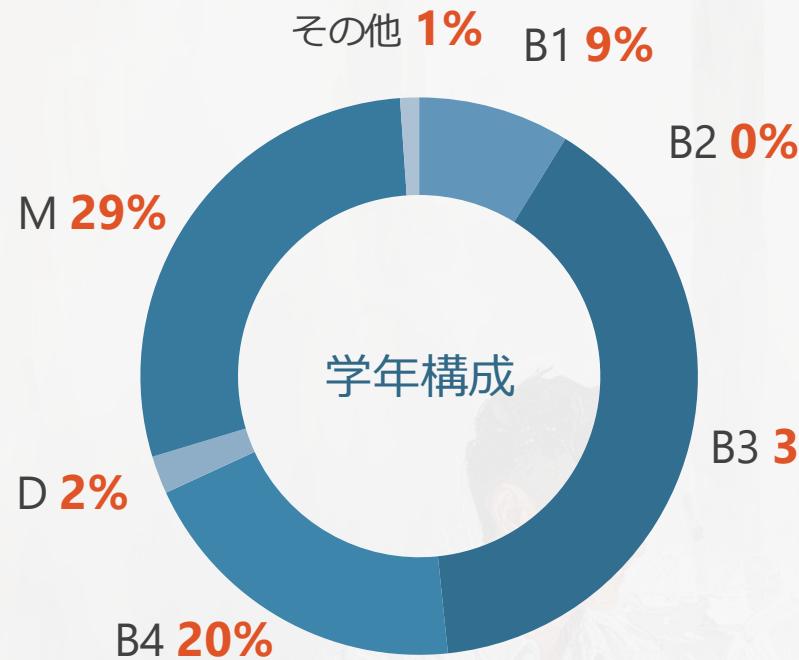
学修支援・
環境整備の改善



ICT教育支援体制の充実

■ 回答者の基本概要

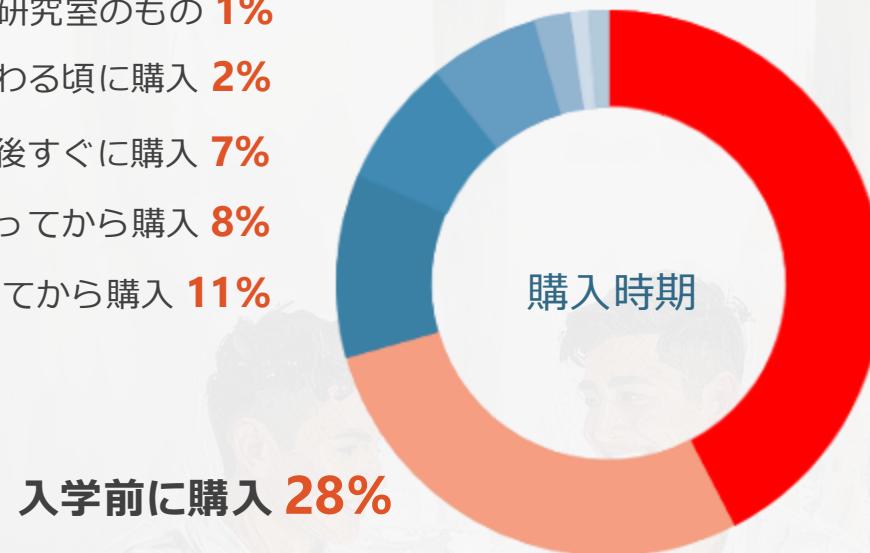
回答総数：91 件



学部3学年の回答が最も多く、全系・全学年から広く回答が得られた。

■ ノートPC購入時期

ノートPC未所持 **1%**
研究室のもの **1%**
入学後、前期の授業が終わる頃に購入 **2%**
入学後すぐに購入 **7%**
入学後かなり経ってから購入 **8%**
入学後1年ほど経ってから購入 **11%**

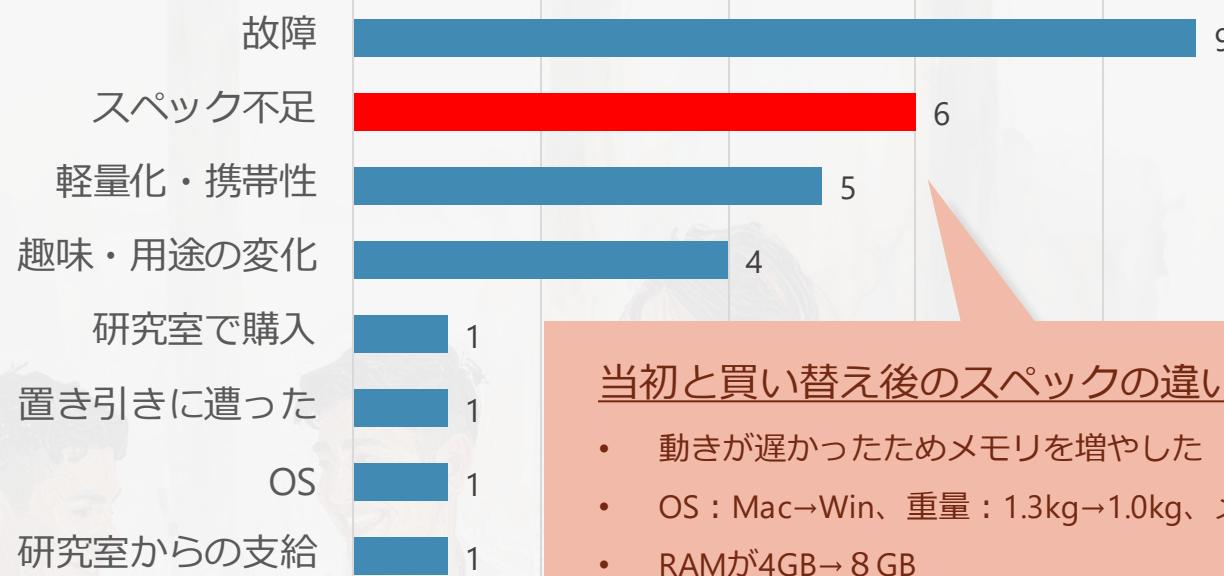
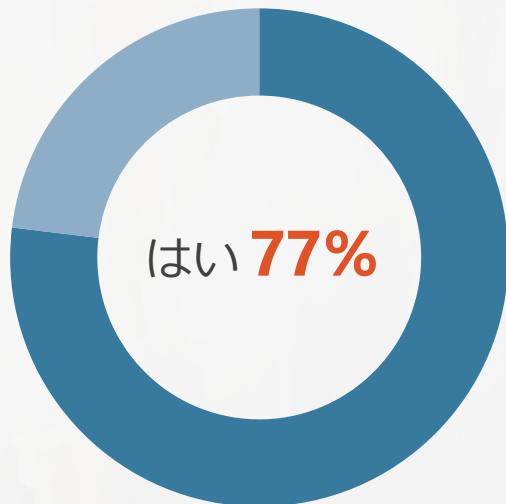


高専(高校)の頃から使用している
42%

入学前に購入、または高専・高校時代のPCを継続利用する学生が大半を占め、性能格差が見られる。

■ 在学中のノートPC買い替えの有無とその理由（複数選択）

在学中にノートPCを
買い替えましたか？



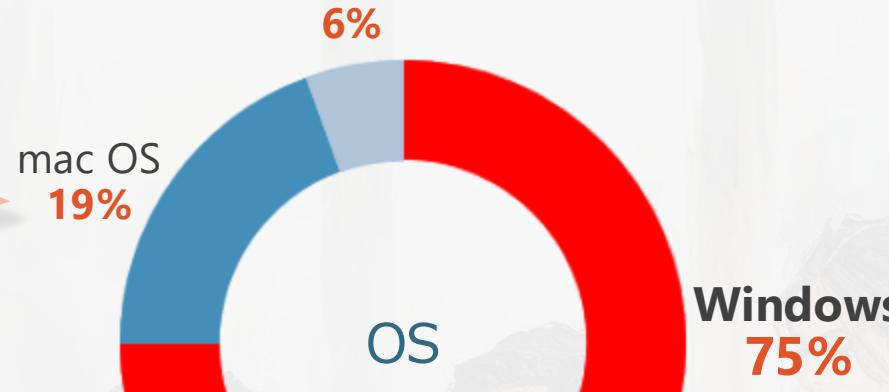
当初と買い替え後のスペックの違い（自由記述）

- ・ 動きが遅かったためメモリを増やした
- ・ OS : Mac→Win、重量 : 1.3kg→1.0kg、メモリ : 8gb→16gb
- ・ RAMが4GB→8 GB
- ・ ストレージ、メモリ容量を増やした

在学中に買い替える学生が半数以上であり、主な理由は「スペック不足」「用途の変化」「故障」。一方で趣味・デザイン・持ち運びやすさなど学修以外の観点もみられ、PC選定基準の多様化が進む。

■ 現行ノートPC OS別構成

その他 (WindowsとLinuxのデュアルブート)



プロセッサ (自由記述)

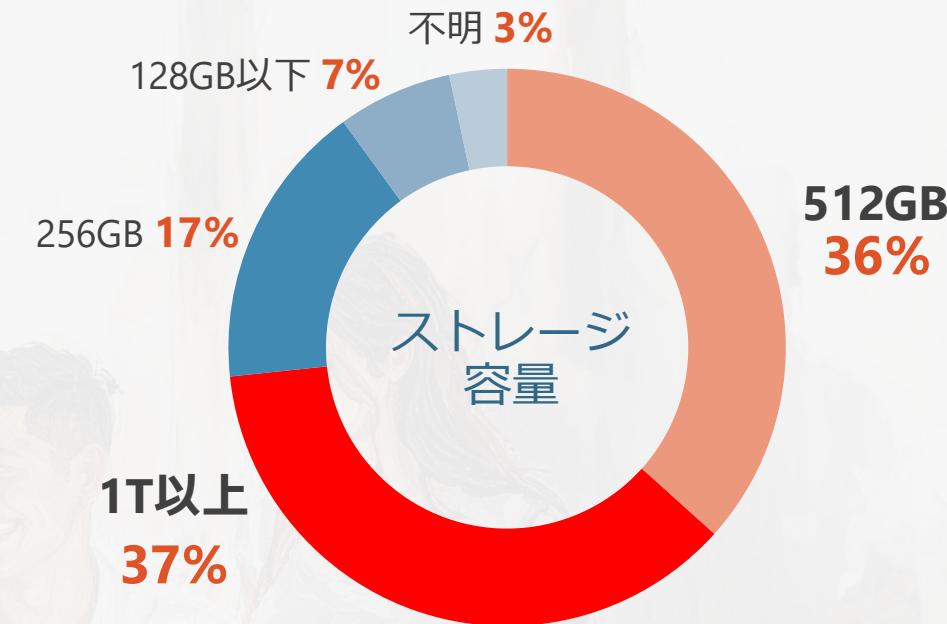
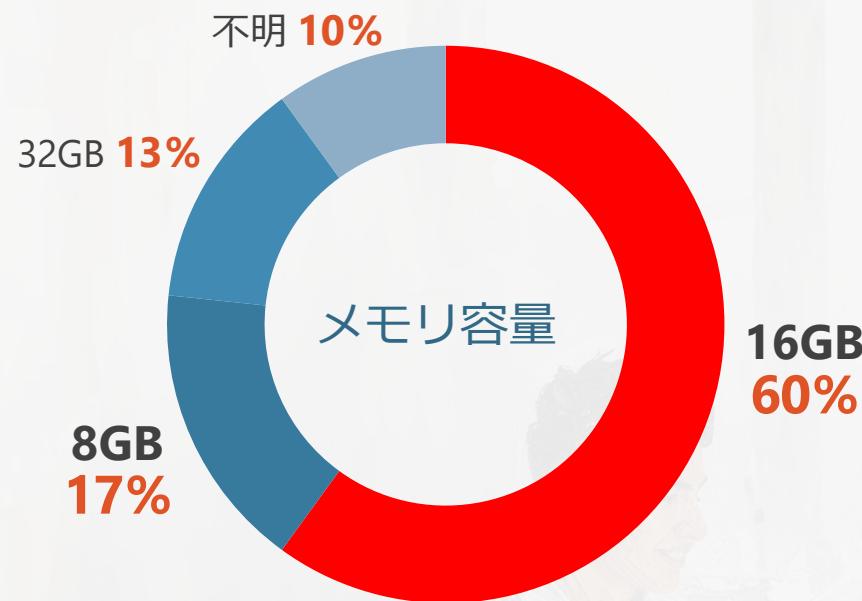
- M2
- M3
- M4
- M4 Pro

プロセッサ (自由記述)

- intel corei5-8269U
- Intel corei5-10310U
- Intel Corei7-13700H
- Ryzen7 4800H with Radeon Graphics
- Ryzen7 5800U

依然としてWindows利用者が多数を占める。

■ 現行ノートPC メモリ・ストレージ容量別構成



多くの学生が16GBメモリを使用。ストレージは256GB・1T以上が主流。

■ 現行ノートPC 満足度

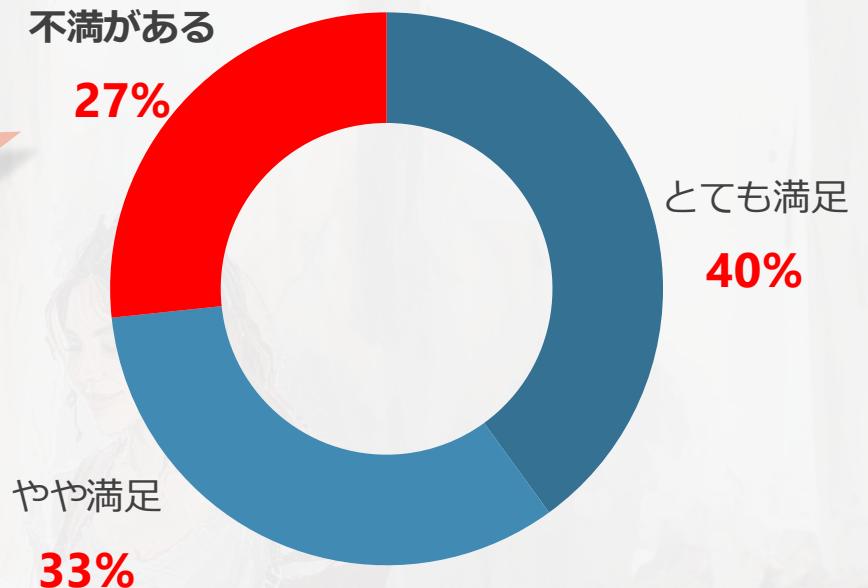
「不満がある」主な意見（自由記述より抜粋）

1. 処理・性能面の問題

- ・ 3DCADや複数アプリ使用時に動作が重い、処理が遅い
- ・ グラフィック性能不足
- ・ メモリ不足（RAMが足りない、アプリ起動が遅い）
- ・ ストレージ容量不足、増設不可

2. 安定性・信頼性の問題

- ・ 誤作動の頻発、Wi-Fi接続が不安定



全体として満足度は高いが、処理速度やストレージ不足への不満が散見された。

■ 現行ノートPC スペックで困っていること (自由記述より抜粋)

✓ バッテリー関連

「持ち運び時のバッテリー持続時間が短い」
「2,3時間で充電が切れる」

✓ 性能の問題

「全体的な動作が遅い」
「CPU内蔵GPUのため動画編集に時間がかかる」
「多くのタブを開くなど高負荷作業が困難」

✓ メモリ・ストレージ不足

「シミュレーションソフトなどでメモリが不足しがち」
「計算処理に時間がかかる」
「メモリ32GB以上、ストレージ1TBに増設したい」

✓ 通信環境

「wi-fi接続が不安定」

処理性能・メモリ容量・バッテリー持ちに課題があり、高負荷作業や長時間の持ち運び利用に支障が出ている。

■ ノートPCの選び方に関する大学サポートへの意見

主な意見 (自由記述より抜粋)

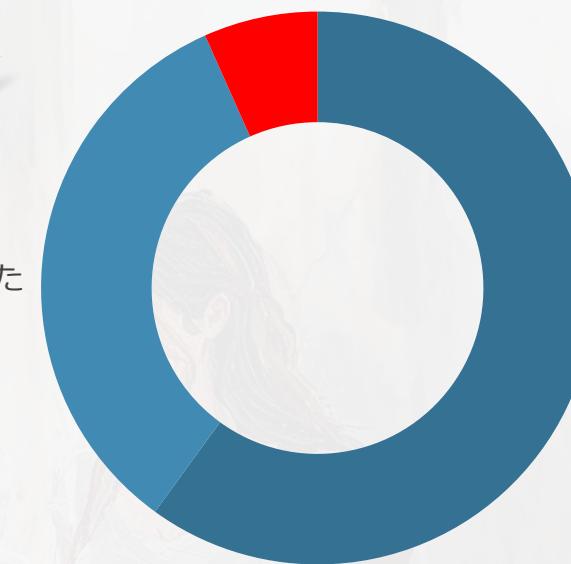
- ・ それぞれのスペック項目（メモリ、GPU等）の利点・欠点がわかるような情報がほしい
- ・ 使用するソフトウェアや目的に応じて、推奨スペックを提示してほしい

もっとあればよかつた **7%**

十分だった
33%

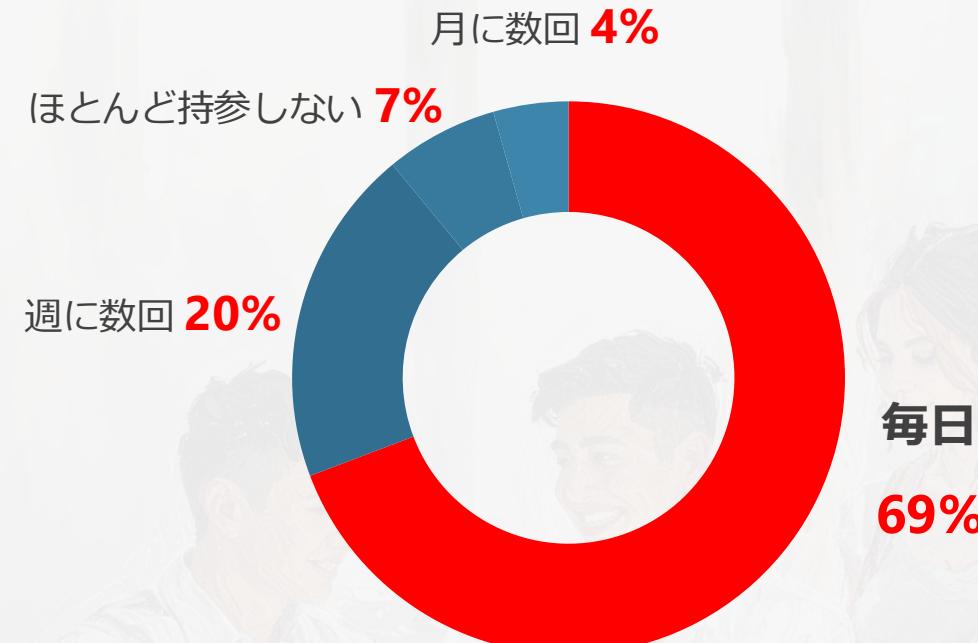
どちらとも言えない

60%



学生は、スペックの意味や違いを理解できる説明と、用途に合った具体的な推奨構成の提示を求めている。

■ ノートPCを学内に持参する頻度



毎日持参が過半数を占める一方、「ほとんど持参しない」も一定数存在。授業設計や、教室環境（電源等）との関係性が示唆される。

■ ノートPCを持ち歩く利点について（自由記述より抜粋）

✓ 場所を問わず作業ができる利便性

- 「どこでも研究やサークル活動、アルバイトができる」
- 「学校内のどこでも課題や研究などの作業を行える」
- 「好きな場所で作業できる」

✓ 授業や資料利用の効率向

- 「授業資料を見ながら授業を受けられる」
- 「手元で資料を確認・提示できる」
- 「席が遠くても資料が見られる」

✓ 作業の即時性・マルチタスク性

- 「すぐにデータを確認・編集できる」
- 「共同作業やマルチタスクに長けている」
- 「デスクトップPCの作業を引き継ぎ、どこでも続行可能」

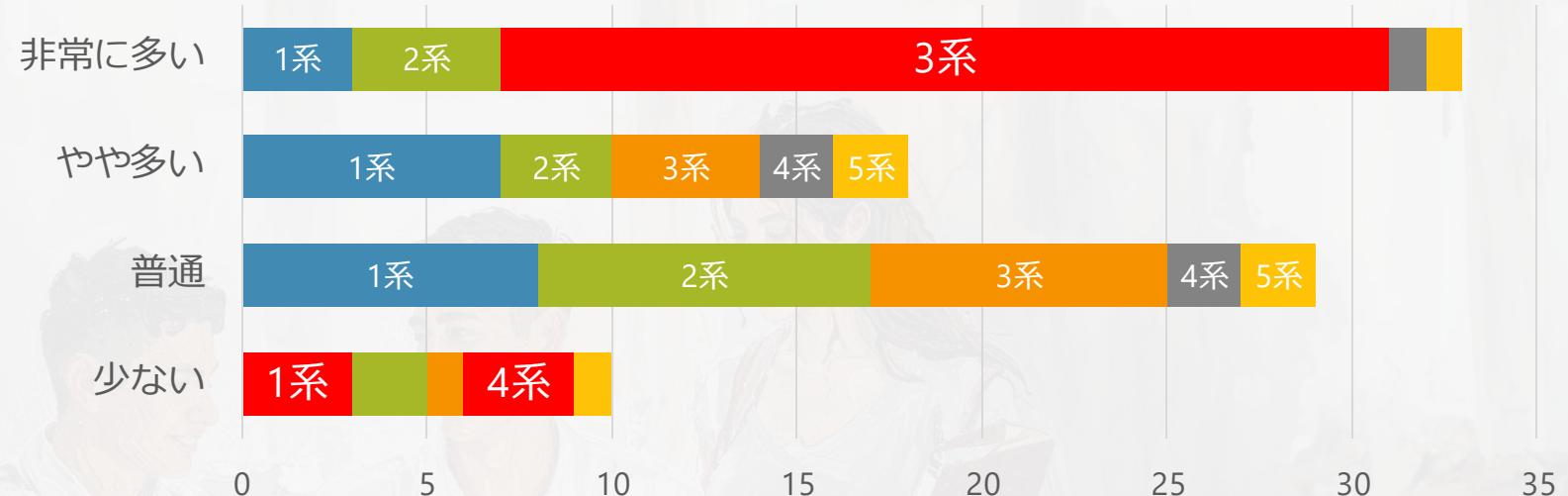
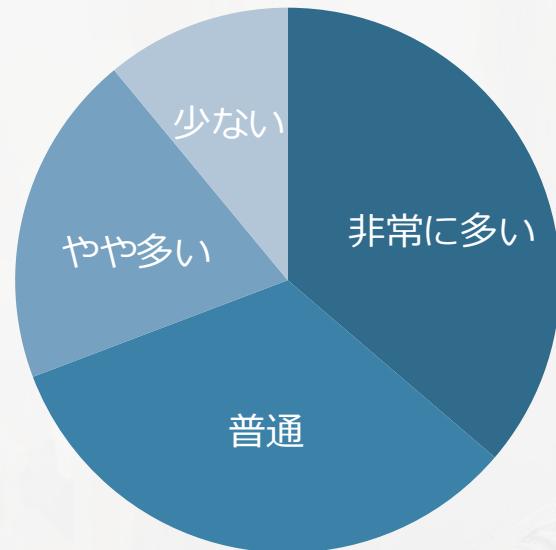
✓ 学修・研究以外も含めた多用途性

- 「オンライン面接や学会資料作成に対応できる」
- 「作業や趣味など幅広く利用できる」

学生はノートPCを「学習・研究・作業を効率的かつ場所を問わず行えるツール」として活用しており、特に授業資料の閲覧・編集や学内外での作業柔軟性が高く評価されていることがわかる。

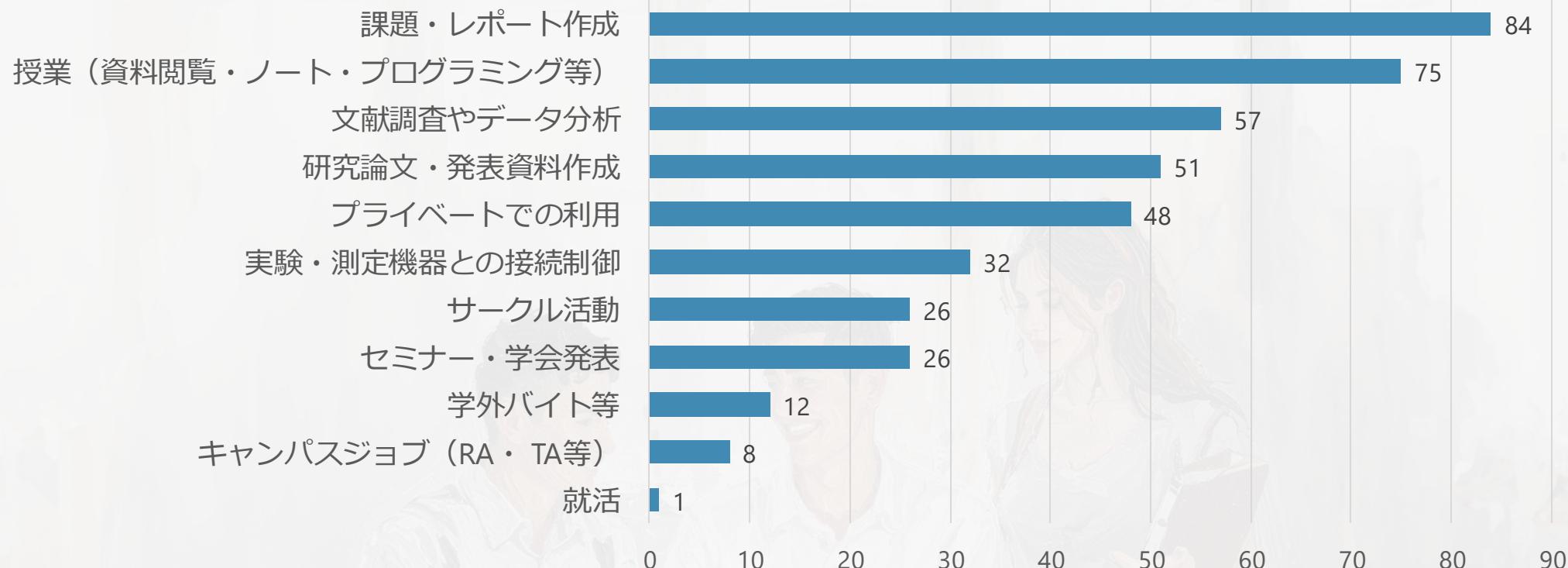
■ 所属系でのPCの活用する授業の割合

■所属系では、PCを活用する授業の割合は多いと感じますか？



「非常に多い」と回答した学生の73%を3系が占めており、一方「少ない」と回答した学生の過半数は1系と4系に集中していた。3系ではPCを活用する授業が特に充実している一方、1系・4系では授業内容上PC利用の必要性が比較的低いことがうかがえる。

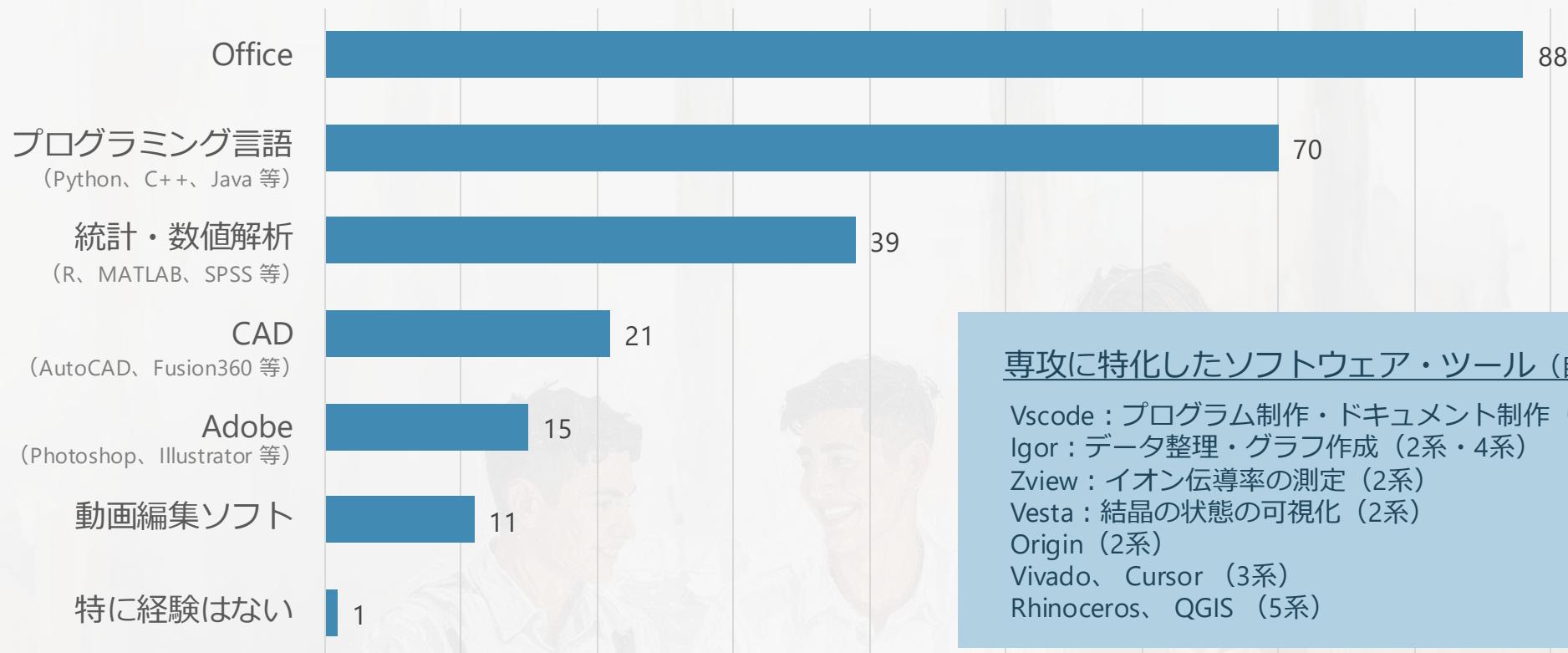
■ ノートPCを使う場面・目的 (複数選択)



授業・課題・調査など学修目的での利用が中心。

一方で「趣味・創作・アルバイト」での利用もみられ、PCが学修と生活の両面で不可欠なツールとなっている。

■ 授業で使用するソフトウェア・ツール (複数選択)



専攻に特化したソフトウェア・ツール (自由記述)

Vscode : プログラム制作・ドキュメント制作 (1系)
Igor : データ整理・グラフ作成 (2系・4系)
Zview : イオン伝導率の測定 (2系)
Vesta : 結晶の状態の可視化 (2系)
Origin (2系)
Vivado, Cursor (3系)
Rhinoceros, QGIS (5系)

Office系が圧倒的に多く、続いてプログラミング・統計解析ツールの利用が拡大。

■ 学生の声（自由記述より抜粋）

PCスペック・性能に関するアドバイス

メモリ	メモリをケチるとストレスの原因になる 最低16GB、将来的には32GBが望ましい
SSD容量	500GB以上（クラウド有無に関わらず）
重量	通学・移動を考え1kg以下が望ましい
堅牢性	持ち運びに耐える頑丈さが必要
その他	<ul style="list-style-type: none">・ゲーミングノートPCは不要・タブレットPCは対応端子の面で不利・研究室から支給されるので最初は安価で最低限のスペックでOKという声も

学修・研究で快適に作業できる性能が求められる。

大学・施設への要望

教室・施設の改善	講義教室（特にA棟）のコンセント増設
公平性確保	BYODは家庭の財力により研究進捗が左右される 経済的制約の影響を受けない環境が望ましい PC支給がない研究室もあり格差が生じる
BYOD運用の明確化	Windowsを前提とした講義・実験が多いため 推奨端末は特別な理由がない限りMacは控える
研究環境整備	学内にスパコン設置による家庭環境の格差解消
経済支援	古くなったPC購入の支援金や補助制度

経済的制約に左右されず学習・研究できる環境が求められる。

■ 学生の声（自由記述より抜粋）

PCスキル・教育に関する意見

- ・ 学生間でOfficeソフトやファイル管理スキルに差がある
(内部進学者に特に不慣れな傾向あり)
- ・ スキル差を解消するため、基礎PCスキル学習の必修機会が必要
 - ・ Office機能活用、ショートカットキー、保存・拡張子等データ管理
 - ・ VBA等のプログラミング概要（4系）
- ・ 研究室配属後の作業効率向上に直結する教育の提供が望まれる

PCスキルのばらつきが、研究活動やTAの負担に影響している。

実務・利用上の具体的な課題

- ・ 連続講義時のバッテリー不足
- ・ 使用ソフトによるバッテリー消耗・劣化が激しく
カタログスペックほどバッテリーが持たない場合がある
- ・ 研究室支給PCがない場合、自己負担での運用が必要

個人端末だけでは解決できず、
施設・運用サポートの整備が必要。

■ 総合的な分析

BYOD制度の位置付け

定着段階から → 「質的充実」段階へ移行

学修・研究環境の公平性・効率性向上が課題

安心して学べる情報環境の再設計が必要



単に端末を持たせるだけでなく、
教育・支援・施設・運用
を総合的に整備することが重要

まとめ・今後の展望

- 学生のPC栄養は多様化し、BYODは学修基盤として定着
- 環境格差と支援の不均衡が課題として浮上
- 今後はハード・ソフト・サポートを一体的に整備し「誰でも・どこでも学べる」環境づくりを目指す
- 本結果をもとに、次年度の推奨PC・サポート体制を再設計予定